

# 平成27年度 東蒲原郡国語部 活動報告

部長 中野 裕己

- 1 研究主題 「言語の力を育てる国語科の指導」  
～説明的文章での指導における言語活動の工夫を通して～

## 2 研究の概要

- (1) 第1回 活動計画立案  
(2) 第2回 講話「言語活動の充実に向けて」  
講師：阿賀町教育委員会 指導主事 中原 広司 様  
(2) 第3回 指導案検討会及び研究授業単元の指導案持ち寄り  
(3) 第4回 授業研究指導案構想説明会  
(4) 第5回 授業研究及び教育課程伝達講習会  
授業者：阿賀町立三川小学校 渡部 絵里奈 教諭  
単元名：組み立てを考えて書こう  
教材名「自分の考えを伝えるには」(光村図書4年)

## 3 研究の実践

### (1) 第2回国語部会（講話）

阿賀町教育委員会指導主事 中原広司様を講師にお招きし、講話をお聞きした。

「言語活動の充実に向けて」を演題に、今年度の国語部の研修の軸となる「書くこと」の分野について、具体的な指導法や実践を紹介していただいた。

短作文の題材について、「創作型」（もしも作文・ウソ作文・続き話）、「観察型」（変身作文・スケッチ作文・説明作文）、「択一型」（好き嫌い作文・ディベート作文）のような様々なタイプを紹介していただいた。また、作文単元における基本的な指導の構想として、「書くための事例を豊富にもたせる→主題、相手と事例とを関連づけて、適切な事例を選択させる→選んだ事例の組み立てを文章構成表にまとめさせる→記述させる」といったモデルを示していただき、大変有意義なものとなった。

### (2) 第5回国語部会（授業研究）

#### ①本時のねらい

記述前に確認した8つのポイントに沿った読み返しを通して、文章の間違いに気付いたり正したりすることができる。

#### ②授業の実際及び考察

題材として、「三川のおすすめの季節」を取り上げた。そして、総合的な学習の時間に育てたお米を新潟市で販売する際に、書いた作文をパンフレットにまとめて配付するふるさとPR活動を単元のゴールとして位置付けた。この指導の工夫によって、児童の目的意識が明確になり、書く意欲を高めることができた。

読み返し（推敲）を行わせる際に、グループでチェックし合う活動を取り入れた。ポイントに従って友達の作文の間違いを指摘し合い、よりよく修正する児童の姿が見られた。ただし、推敲は本来個人で行うものなので、今回のグループでの活動を個人の推敲の力につなげていくための手立てが必要である。



## 4 成果と課題

講話、授業研究は、「書くこと」において言語の力を育てるための手立てを探る有意義な研修となった。特に「書くこと」においては、総合的な学習の時間や社会科の学習とリンクさせて、児童の書く意欲や相手意識を高めることが重要であるということを再確認することができた。

また、作文単元の指導においては、原稿用紙の使い方、言葉の表記、文及び文章の構成など、指導の必要なポイントが多岐に渡ることがある。ねらいやポイントを絞った指導が重要であることが確認できた。